2013年11月号「vol.41」◎編集：新井絹世　横浜市磯子区丸山2-24-3　◎電話：045-751-5250 ◎FAX：045-761-7451

県議会議員

あらい絹世の 磯っ子レポート

県政をもっと身近に

http://www.araikinuyo.jp

来年度からの新しい文化芸術振興計画を策定中
「マグカル」ベースに推進中の神奈川県の文化行政

芸術の秋。そして11月3日は文化の日。学問、芸術、道徳、ふるまい、習慣など人間の精神の働きによって作り出された文化は今大きく見直されています。世界では文化力の影響が格段に増し、アジアでは似通ったライフスタイルを楽しむ都市中間層が拡大する中で、テレビドラマやアニメなど「共通文化」という現象も出てきました。和食、サブカルチャーなど和、簡潔さや繊細さを重んじる日本文化は世界でもてはやされています。同一性と同時に異質性（違い）が認められるところが文化の素晴らしいところで、この結果、地域の特性も尊重されています。こうした中で神奈川県では2012年度から「文化芸術の持つ『人を引き付ける力』を活用して街のにぎわいを創出する『マグネット・カルチャー（マグカル）』事業」をベースに文化行政を展開しています。神奈川の文化行政を概観してみると―。

MAGNET CULTURE PROJECT KANAGAWA

【文化行政先進県】県立近代美術館（1951年設置）、県立音楽堂（1954年設置）は全国初の公立の近美館、音楽ホール。1952年から続く神奈川文化賞は全国でも古い顕彰制度。

【神奈川県の文化行政のベース】湘南の海や丹沢の山、鎌倉の武家文化、近代西洋文明の取り入れ口となった横浜港、保養地・箱根、京浜工業地帯など多種多様な文化遺産を活用して地域のにぎわいづくりを進めていこうという「マグカル」事業に置いている。今春から官民、各地域のイベント情報をまとめて一元的に提供するホームページを立ち上げた。

【かながわ文化芸術振興計画】総合的・長期的な目標・方向性を定めたもので2009年3月に策定。それを改定し2014～2018年度を対象とする新しいものを策定する。県は10月末から11月末まで県民に改定素案を示し、意見を募集。来年3月に決定する。問い合わせは文化課TEL045―210―3804へ。

【国際連携】劇場の国際的な連携を進める試みに乗り出す。今年度中に連携劇場を選び、公表する。

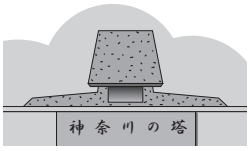
コレが言いたい！

県内には長い間受け継がれた伝統文化が数多く残っていますが、県内の歴史を理解する上で重要なものであり、新たな文化を創造する役割も果たします。県内の文化を保護するには県民の関心が重要であり、学校や地域において文化財の体験や学習する機会を図り保護への意識を高め、そして未来につなげていくことが必要と考えます。

今月のひと言

老朽化が進んでいる**「神奈川の塔」**の改修整備を行うため県民の皆さんから寄付を募っています。（詳細は神奈川県HPをご覧下さい。）

「神奈川の塔」とは？沖縄をはじめ南方諸地域で亡くなられた神奈川県関係者の方々を追悼し世界平和を願うため、昭和40年11月に沖縄県糸満市に建立しました。



磁子 あれ？これ？

磁子区出身の有名人今昔

磁子区出身の芸能人（アイドル）といえば・・・。

まず初めに、頭に浮かぶのは「美空ひばり」さん。区役所の前の歩道には生誕の記念碑が建てられています。最近では「ゆず」の北側悠仁さん、岩沢厚治さんの2人。「ゆず」のコンサートに合わせて、全国から若い女性ファンが地図をたよりに2人の実家周辺だとか、2人が通った小・中学校で写真を撮ったりする姿を見かけます。またGS（グループサウンズ）が全盛期の頃の、「バラ色の雲」が大ヒットし活躍した、ヴィレッジ・シンガーズのヴォーカル「清水道夫」さんも岡村の出身です。他にも歌手のゴダイゴのミッキー吉野さん、杉山清貴さん等・・・。芸能人以外では、元女子プロレスラーのジャッキー佐藤さん（故人）・格闘家で参議院議員だった神取忍さんも区内出身です。

美空ひばり」生誕記念碑

また、磁子区出身ではありませんが、俳優の田中邦衛さんは30年近くも磁子台で生活し、消防団を題材にした映画出演が縁で、磁子区の消防出初式にも何度か出席しています。磁子台に居住した理由は、新婚旅行の途中、旧プリンスホテルに宿泊した際に部屋から望む根岸湾一帯の眺めが気に入り居を構えたそうです。

意外にも磁子区は芸能関係者との繋がりが少なくありませんが、将来どんな逸材の人物が現れるか楽しみでもあります。

活動報告

第3回定例会に於いて、所属する厚生常任委員会で下記の質問を致しました。

❶在宅医療の推進について

本県においても急速な高齢化が進む中、在宅医療は喫緊の課題であり、今後医療政策の重要な柱の一つとなってくると考えます。県内の在宅医療の現状を把握し地域による医療サービスにばらつきが出ず、実施主体となる市町村が取り組みを進められるよう市町村への支援を行うよう要望しました。

❷子宮頸がん予防ワクチンについて

子宮頸がん予防ワクチンの副反応を訴える人は県内でも20人にのぼります。国に対して十分な情報開示を求め、次の世代を担う子どもたちが受ける被害を最小になるよう環境整備に努め、県が持っている情報については、市町村や関係機関へ提供することで実態把握に有効に活用すること。また現在の状況においては子宮頸がん検診の重要性は益々高まっていると考えるので一層の周知を図り検診の受診率向上に向け取り組むことを要望しました。

❸県立病院機構の運営及び県立汐見台病院のあり方について

県立汐見台病院の今後のあり方については総合病院の機能を残すこととなりましたが、設置運営主体の検討を進める中で、磁子区内の数少ない総合病院として一般的医療を提供し地元住民の診療所としては大切な病院です。また在宅医療を進める中では地元診療所の後方支援病院としての機能もあることから現在の病院機能や運営に影響が出ないよう丁寧な対応をするよう要望しました。

❹救急医療補助金の見直しについて　❺マイカルテプロジェクトについて

あらい絹世 プロフィール

- ●昭和43年3月8日　横浜市磁子区生まれ
- ●横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- ●明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- ●日商岩井㈱ / ㈱メタルワン
- ●自民党かながわ政治大学12期生
- ●平成23年4月　県議会議員初当選
- ●厚生常任委員/社会問題対策特別委員
- ●自民党神奈川県議団副団長

あらい絹世に対するご意見・ご感想・ご要望・メッセージをお寄せ下さい・・・・・・・・・・・ FAX 045-761-7451